

手をつなごう

平成18年9月4日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 10

残暑お見舞い申し上げます。長かった夏休みも終わりました。
子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。長いお休みでしたが、
それぞれご家庭で工夫してくださり、子どもたちはいろいろな経験ができた
ようです。2学期からの学習できっとその経験がいきてくることと思います。

さて、我々教職員にとっては研修、研修、会議、そして少し「ほっと一息」
の夏でした。校内の研修だけでなく、教育センターでの研修、県外へ出掛け
ての研修にも多くの教職員が参加しました。中には自費で高い参加費を払い、
セミナーに参加した教職員もいます。

特別支援教育に向けて、我々の専門性の向上が求められている今、
夏期休業中は大切な研修の機会となっています。



公開講座のご参加ありがとうございました！



各地域の特別支援ネットワークとの共催で実施した
公開講座でしたが、本当に多くの方のご参加をいた
だきました。講座：190名、講座：186名、
講座：275名、講座：88名で、延べにすると
739名という人数でした。

また学校関係者だけでなく、福祉・行政機関、保護
者、ボランティア、企業、そして地域の方...と、幅広
い方面からの参加があったことも大きな特徴であつた
と思います。

このような講座が開催できましたのも、備前、赤磐、
瀬戸内各市の教育委員会を始め地域の皆様のご協力が
あればこそだと思います。本当にありがとうございました。
今号から何回かに分けて内容をお知らせします。

講座1：自閉症スペクトラムその特性と支援の在り方 —幼児期から学童前期を中心に— おかやま発達障害者支援センター副所長 土岐淑子先生



たくさんの実践経験から、
右のような内容で詳しく丁寧
にお話をいただきました。
穏やかな語り口調で、「とても
分かりやすかった」「これから
にいかしていきたい」という
声が多数寄せられました。
(参加者のアンケートにつ
いては次号で詳しくお知
らせします)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 発見から就学までの流れ | 4 幼児期～学童期の課題 |
| 2 診断がつくこと | 5 具体的な支援 |
| ・診断までの不安 | ・個別化が基本 |
| ・診断後に必要なサポート | ・子どもにとってのわかりやすさ |
| 3 自閉症 | ・自立の視点 |
| ・自閉症スペクトラムの症状 | ・認知水準に応じた療育 |
| ・年齢と症状 | ・医療との連携 |
| ・特性の理解 | 6 子どもの安心 |